

令和7年度第3回学校運営協議会議事録

【日 時】

令和8年2月17日（火）10:00～11:30

【場 所】

本校会議室

【参加者】

【A氏】（学識関係者）

【B氏】（行政関係者）

【C氏】（地域関係者）

【D氏】（P T A関係者）

1 開 会

2 校長挨拶

皆さま、おはようございます。本日は、ご多用のところ、お集まりいただき、ありがとうございます。委員の皆さまには、日頃より、本校の教育活動に、多大なるご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。また、日にちを変更しての実施となりましたことをお詫び申し上げます。

はじめに、令和7年度文部科学大臣優秀教職員表彰について御報告申し上げます。

昨日の岩手日報に掲載されましたが、本校高等部では、東日本大震災津波後から地域の皆さまや企業とともに立根川の除草活動を行っており、共生社会の実現と地域の活性化に成果をあげたことを御評価いただき「気仙光陵支援学校高等部職員一同」として受賞いたしました。

これは、気仙地域にある支援学校として地域に支えられ、つながり（絆）を深めてきた成果であると、校長として大変嬉しく思います。学校運営協議会の委員の皆さまはじめ、地域の皆さまに心より御礼申し上げます。

さて、本日の第3回学校運営協議会では、「光陵スタイル」について、後期の学習活動の御報告と、第2回と同様の形式で、今後に向けて、委員の皆さまにもご意見をいただきながら共に深めてまいりたいと思います。また、令和8年度学校経営方針について説明させていただきますので、委員の皆さまには、様々なお立場や視点から、忌憚のないご意見や貴重なご提言をいただきたく存じます。

今日の協議が、本校のさらなる教育活動の充実と発展に繋がる実り多いものとなりますよう、皆さまのご協力をお願いいたします。

3 教育活動の経過報告

別紙にて報告

4 令和7年度学校評価について

別紙にて報告

【A氏】子どもたちに対する温かさや姿勢が肯定的評価の高さといった数字に表れており素晴らしいと感じた。

【D氏】寄宿舎の生活は楽しいかの設問で「いいえ」の回答がある。考えられる理由は何か。

副校長：楽しい寄宿舎生活を送ることができるようにする取り組みの一つとして余暇活動の理解、充実を図る研究チームでの取り組みを行った。余暇で取り組みたいことを寄宿舎生と一緒に考えながらいくつか実施した。寄宿舎生活を送るなかで自分の考えを十分に伝えきれていないという思いなどがあるのかもしれない。

【B氏】保護者へ日常の教育活動の発信はどのようにしているか。

副校長：頻度はそれぞれ異なるが学部ごと日常的に学年通信、学団通信等を作成配付し、学習や活動の様子をお伝えしている。noteの発信も再開したところである。

5 令和8年度学校評価について

別紙にて報告

【C氏】教職員アンケート自由記述に負担感がある旨の記述がある。働き方改革は各校の実情に合わせて取り組むことが基本になると思うがそれだけでは進まないものもあると感じている。改革を推進させるために県から支援などがあるか。

校長：今回多くの教職員から多くの声があげられたことは肯定的に捉えている。年代、経験、価値観など様々な違いがあり改革を進める難しさもあるが次年度の経営方針説明の際は「働きやすさ」と「働きがい」についてしっかり伝えていく。

6 対話「働きやすさと働きがいのある職場づくりについて」 (対話におけるキーワード)

○「働きやすい」職場

- ・意見を気軽に話せる、話したら聞いてくれる
- ・自分の感じたことを自分の言葉で自由に話せる
- ・困ったときの相談しやすい環境
- ・何でも話せる風通しのよさ
- ・頼みやすい、休みやすい
- ・意見を出し合いながら作りあげる
- ・得意分野で協力、カバーする
- ・理解ある先輩や上司、相互理解
- ・相談したら一緒に考えてくれる
- ・助け合えるチームワーク
- ・仕事の見通しがもてる
- ・ハラスメントがない

○「働きがいのある」職場

- ・子どもの成長や変化、成果が目に見える
- ・自分の能力が発揮できる
- ・アイデアを生かせる
- ・実施、実践のねらいが達成される
- ・一人一人が一員として認められ自分の仕事ができる
- ・子どもたちのできなかったことができるようになったとき

7 委員の皆様から

【D氏】これまで保護者の立場で学校とかかわってきたが運営委員になり先生方や学校の考えや苦悩など、内側を垣間見ることができ自分の学びになった。昨年から今年と協議会の内容が充実してきている。継続して子どもたちのために頑張っていたいただきたい。

【C氏】どの学校でも多くの先生方が頑張っている。大変なことが様々あると思うが健康に留意しながら頑張してほしい。私は引き続き畑関係で学校とかかわらせていただく。

【A氏】光陵支援学校の温かい雰囲気と子どもたちに対する姿勢が学校評価の数字に表れていた。対話の中でも確認したが最終的には先生方の心身の健康があってこそ子どもたちの成長につながっていく。今後もできることがあればお手伝いさせていただきたい。

【B氏】運営委員として携わることで学校のことを様々知ることができた。働き方改革はすぐに結果が出にくいということは先ほどの話しにあったとおり。継続していくことだと思う。先生方に余裕がなければ子どもたちに向き合うのも難しくなる。現在もしっかり取り組まれているが引き続き頑張ってもらいたい。

校長謝辞

本日はたくさんの貴重なご意見を頂戴しました。心より感謝申し上げます。

本日の第3回学校運営協議会でも、委員の皆さまと教職員が、距離感を縮めながら意見交換やご助言をいただくことができ、大変有意義な時間となりました。皆さまからいただいたご意見を含め、よりよい学校経営に努めてまいりますので、今後ともよろしく願いいたします。

委員の皆さまには、これからも応援団として気仙光陵支援学校を支えていただければ幸いです。本日は、誠にありがとうございました。

8 事務連絡

次年度の学校運営協議会委員について後日、電話で確認させていただくこととする。

9 閉会